

建築設計第4部 Architectural Design IV

教員名	阿部 浩和 (あべ ひろかず)、小浦 久子 (こうら ひさこ) 野村 充 (のむら みつる)、森下 修 (もりした おさむ)							
教員連絡先 (研究室所在地・TEL)	吹田キャンパス S 1 棟 7 階 726 室、711-B 室 電話: 06-6879-7655 (06-6850-5827)、06-6879-7627							
E-MAIL アドレス	abe@arch.eng.osaka-u.ac.jp koura@arch.eng.osaka-u.ac.jp							
履修対象	建築工学コース (3 年次)							
単位	3	セメスター					6	
受講条件	建築設計第 1 部, 第 2 部, 第 3 部を履修していること。							
授業の教育目的・目標 他科目との関連	建築計画、建築構造、建築環境等、建築に関係するすべての分野についての理解に基づく創造的総合化として建築の設計を行う。ここでは、集合による半公共空間および複合的な機能をもつ建築の設計を通して、建築空間の構想力ならびに複雑で多様な機能の構成力を養成する。							
学習・教育目標	A	B	C	D	E	F	G	H
	○	○	○					◎
授業計画・概要	テーマ		概要					学習・教育目標
	第1課題 市街地における複合施設 (14回)		大都市の市街地を対象に、複雑な機能と多様な空間の構成からなる比較的大規模な複合施設を設計する。この設計を通して周辺環境への配慮や歴史的建築物の保存、社会的ニーズなど互いに矛盾する現実的な命題を各自の設計思想を通して設計案の形で解決するための高度な専門知識を身につける。 (高度専門14回)					A, C, H
	第2課題 市街地更新と共同住宅 (14回)		複数の建築物が更新することにより市街地が変化していくときに、建築によってどのような市街地環境を実現していくかについて、歴史性や地域文化など地域資源を手がかりに共同で構想し、課題地区での建築の考え方を共有する(グループ課題)。この考え方にもとづき共同住宅を設計(個別課題)する。2つの課題を通して、地域の読み方、建築によって構成される地域環境の構想力を学び、地域条件をふまえて設計において与えられた課題を解決することを習得する。(高度専門14回)					A, C, H
	総合講評 (2回)		総合講評会において作品を発表し各審査員からの質疑に答える中で設計のプレゼンテーション能力を身につける。(高度専門2回)					B, H
教科書	日本建築学会編「コンパクト建築設計資料集成」、丸善株式会社							
参考図書・文献等	日本建築学会編「建築設計資料集成 [総合編]」、丸善日本建築学会編「建築設計資料集成 1~10」、丸善							
成績評価方法・評価基準	A、Bについては出席状況やプロセスでの意見のやりとりの評価(20%)とし、C、Hについては、構想案、草案、概案、最終提出物の評価(80%)とする。							
オフィスアワー	随時 e-mail にて対応							
コメント	定められた日程を遵守し、かつ十分な努力を払うこと。							